

クラウドファンディング
挑戦中！
目標金額
680万円
募集金額：3千円～

耕作放棄地となった室谷の棚田で しまね発の低アレルギー化小麦栽培 しまね夢こむぎ®プロジェクト

島根県西部にある室谷の棚田や中垣内の棚田は、日本の棚田百選に選ばれた美しい農地。でも農業人口の減少から、耕作放棄地になり、美しい景観が大ピンチ！



島根大学医学部皮膚科学講座 森田 栄伸 教授
島根大学医学部皮膚科学講座 ちかみ ゆうこ 准教授
島根大学医学部皮膚科学講座 かわの のぶひさ 特別協力研究員

募集期間
令和3年 1月18日～4月16日23時まで

ご支援ページはこちらから▶
低アレルギー化小麦 レディーフォー 検索
[https:// readyfor.jp/projects/Mugitan](https://readyfor.jp/projects/Mugitan)



低アレルギー化小麦「しまね夢こむぎ®」とは？

私たちが、京都大学農学部名誉教授 遠藤 隆博士と共同で開発した、小麦アレルギーの主な原因ω-5グリアジン遺伝的に欠失した低アレルギー化小麦系統です。動物実験で小麦アレルギーになりにくいことを確認しています。小麦アレルギー患者さんに食べていただく臨床研究は、現在進行中です。

「しまね夢こむぎプロジェクト」とは？

耕作放棄地となった室谷の棚田を再生させるため「しまね夢こむぎ®」を栽培している、益田市の農業家 松本 正人さんを支援するプロジェクトです。「しまね夢こむぎ®」は、ω-5グリアジンを遺伝的に欠失した小麦系統です。このため、他の小麦品種との交雑を避けるため、独立した異物除去システムを備えた製粉施設が必要です。「しまね夢こむぎ®」専用の設備を整えるため、クラウドファンディングで資金調達を始めました。

室谷の棚田とは？

島根県西部にある室谷の棚田は、日本の棚田 100 選に選ばれた美しい農地です。1976年には4,520枚ありましたが、農業人口の減少から、徐々に耕作放棄地となり、現在は1,000枚以下に減少、美しい景観が大ピンチです。皆様からの厚いご支援をお願いします。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2月15日～3月14日 対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
2/15(月) 9:30～11:30	2020年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来・中央診療棟3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	島根大学医学部附属病院 がん患者・家族サポートセンター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

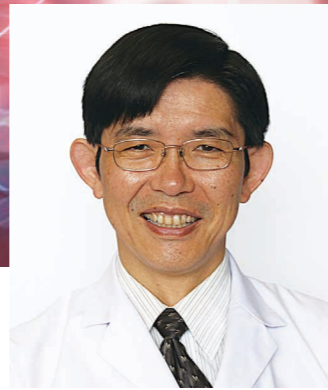
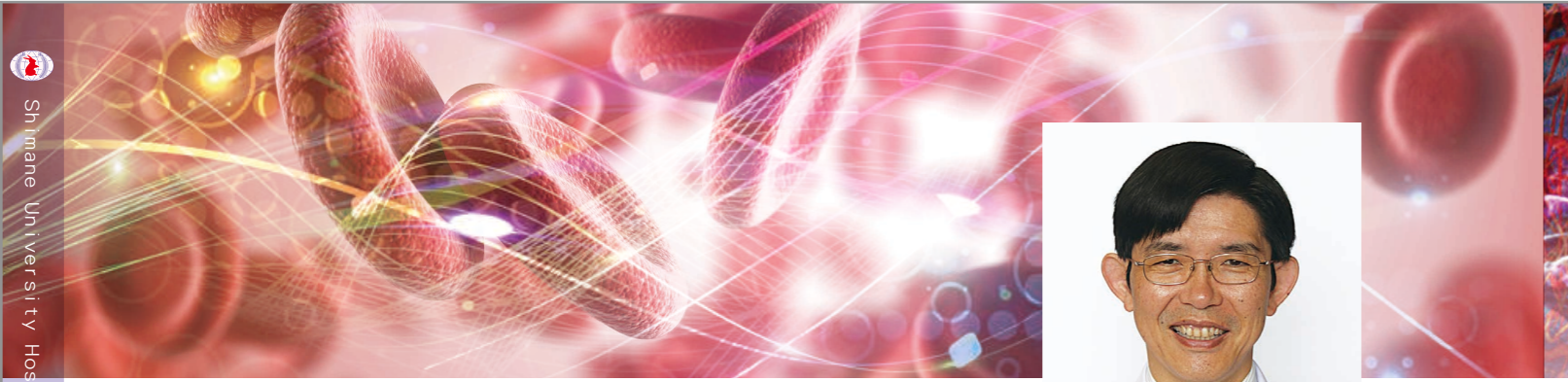
Shimane University Hospital
島大病院ニュース

NEWS



CONTENTS

- ・血液内科の概要
- ・腫瘍内科について
- ・「しまね夢こむぎ®」のクラウドファンディング始めました
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報



血液内科の概要

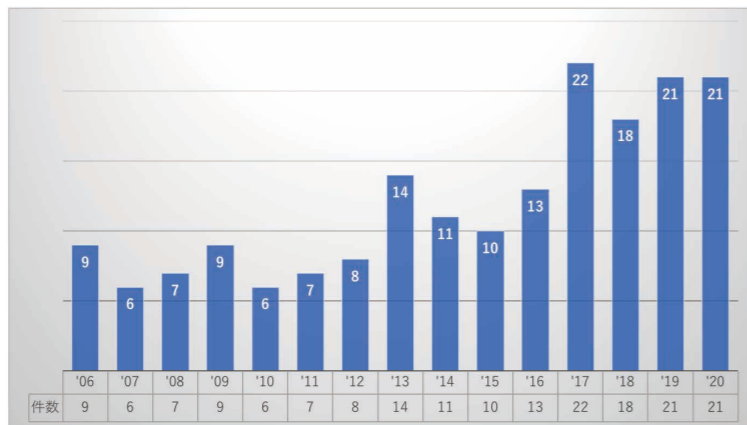
血液・腫瘍内科学講座 血液内科 教授 すずき りつろう 鈴木 律朗

島根大学医学部附属病院では、これまで腫瘍・血液内科として血液疾患と腫瘍性疾患を診療してきました。鈴宮前診療科長の後を受け、2020年4月から私が診療科長を務めてきましたが、このたび2021年2月より血液内科と腫瘍内科に分かれることになりました。この機会に、血液内科について御紹介させていただきます。

血液内科はもともと、内科学第一講座および内科学第三講座でそれぞれの診療科部門として独立して診療が行われていました。旧病棟時代には、主治医として担当する講座によって病棟も分かれていたと聞いております。その後、出雲市と島根県からの寄付金により腫瘍センターが設立され、血液内科出身の石倉教授・鈴宮教授が腫瘍科を担当していましたが、2012年6月に診療科として血液内科との統合が行われ、腫瘍・血液内科となりました。外来診療は血液疾患は外来棟2Fの内科で、腫瘍性疾患は同3Fの腫瘍外来と分かれていましたが、入院患者さんは無菌病棟であるC8病棟と一般病棟であるA4病棟で、白血球減少の程度に応じて診療を行って来ました。2020年11月に血液・腫瘍内科学講座が設立されたのを機に、より専門能力を発揮すべく診療科としての標記を分離することにしました。

血液内科ではこれまで、毎年百数十例に及ぶ初診患者を診療している中国地方でも屈指の施設であるほか、造血幹細胞移植の件数も年々増加しています(図)。山陰では唯一の造血細胞移植学会カテゴリー1認定移植施設であり、2021年内にはCAR-T細胞(キメラ抗原受容体改変T細胞)療法実施施設となる予定です。患者さんの紹介などの際にこれまでご不便をおかけすることもありましたが、新診療科名での御紹介を賜れば幸いです。

図：島根大学血液内科での造血幹細胞移植実施件数



腫瘍内科について

先端がん治療センター 腫瘍内科 教授 たむら けんじ 田村 研治



2021年2月から、旧「腫瘍・血液内科」が「腫瘍内科」と「血液内科」の2つの診療科に分かれました。私のところは、講座名としては「先端がん治療センター」、診療科名としては「腫瘍内科」となります。腫瘍内科は比較的新しい分野ですが、現在、国内の大学病院において、診療科又は、それに準ずる診療部門(腫瘍科、化学療法科など)を有する割合は89%、大学病院以外の臨床研修病院まで広げると約30%です。

腫瘍内科は、アレルギー内科、感染症内科、老年内科などと同様に、臓器横断的な内科の専門領域です。3年前より開始された「新専門医制度」では、内科を基本領域とするサブスペシャル領域の1つになっています。

現在のがん医療は、多診療科、多医療スタッフのチーム医療で成り立っています。「腫瘍内科医」は、臨床腫瘍学という学問を基盤として、主に「がん薬物療法の専門家」としてがん患者さんの治療に貢献します。最近の抗がん剤は、特定の遺伝子異常を標的とする「分子標的薬剤」が主で、その適応は多くのがん種に広がり、副作用も多岐にわたります。最近では、「免疫チェックポイント阻害剤」が多くのがん種で承認されていますが、その適正使用と、免疫関連有害事象のマネジメントには、専門的な知識と経験が必要です。

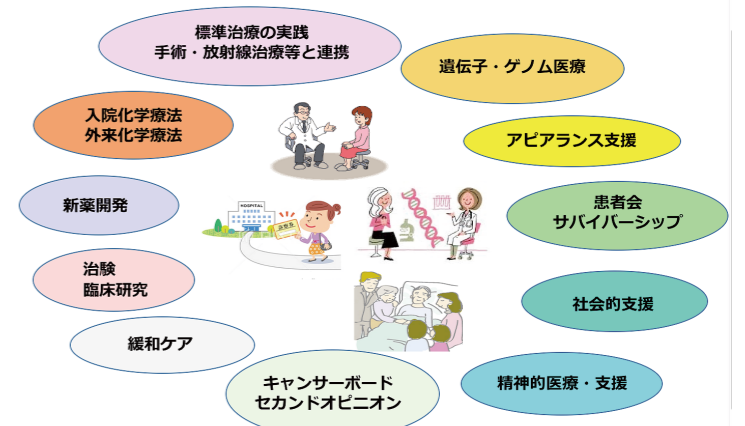
私自身は、呼吸器内科医から肺がんの薬物療法の診療と研究の道に進み、約15年前に「腫瘍内科医」になってからは、消化器がん、肝・胆・膵がん、乳がん、婦人科がん、肉腫、胚細胞腫など、多くのがん種の診療に実際に関わってきました。昨年6月に島根大学医学部に赴任してからは、主に、胃がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、頭頸部がん、肉腫などの患者さんに対して、がん薬物療法を中心とした診療を行っています。

このようながん医療においては、臓器別の専門家と、病態別(臓器横断的)専門家が協力して治療にあたるのが一般的になっており、欧米では、腫瘍内科医のことを medical oncologist と呼び、特にがんの中核、拠点病院には必要な専門医とされています。

また、腫瘍内科医は、受け持ち患者さんの治療のみならず、施設内の入院や外来の化学療法、治験・臨床研究、新薬開発、がんゲノム医療、カンサーボード、がん患者さんの社会的・精神的支援、緩和ケアなど、さまざまな部署でその能力を生かす機会があります(図)。

島根大学医学部の「腫瘍内科」は、他診療科との連携において、がん患者さんの治療に貢献できるように努力し、次世代の腫瘍内科医の育成に力をいれていきます。どうぞよろしく願いいたします。

図：腫瘍内科医





ご報告



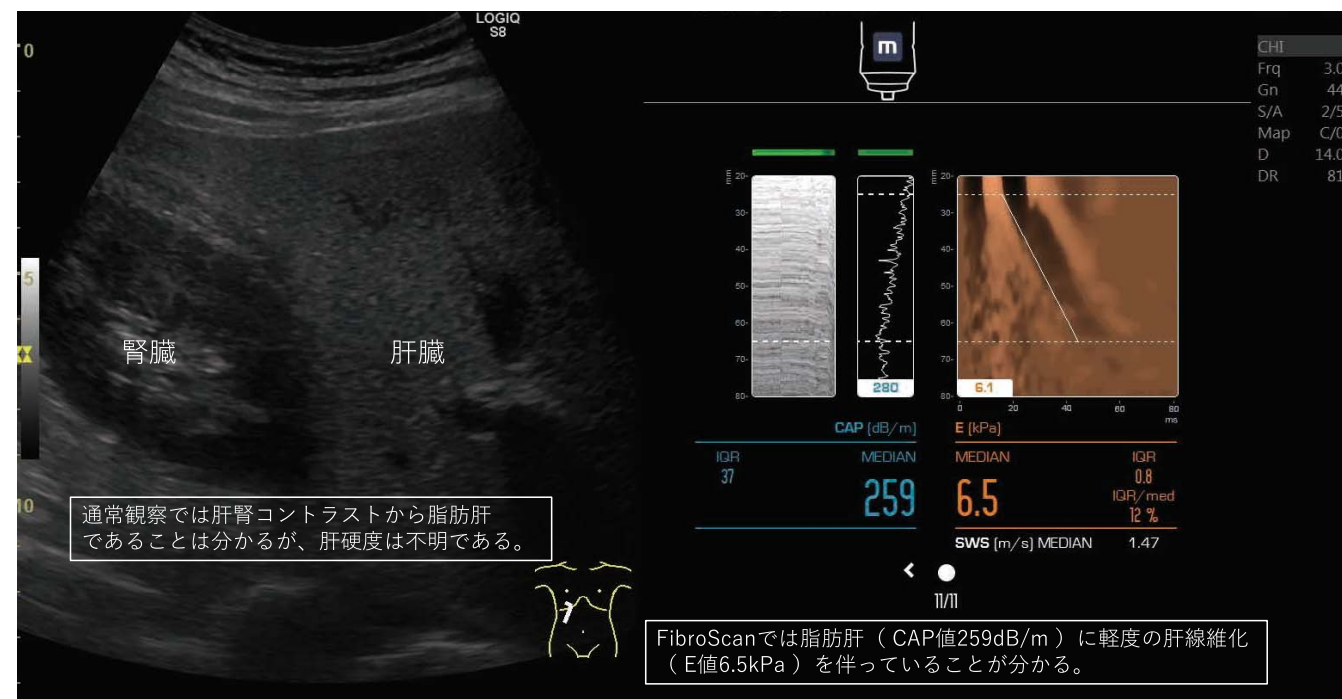
ご報告



非侵襲的な肝硬度測定について

肝臓内科 診療科長 助教 とびた ひろし 飛田 博史

本邦において肥満人口とともに増加している非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の罹患は 2 千万人以上といわれており、最も頻度の高い肝疾患となっています。NAFLD の肝線維化は全死亡や肝関連疾患死亡に寄与する因子であり (Hepatology 65:1557-1565,2017)、予後を規定する肝線維化 (肝硬度) 診断 (肝線維化ステージ 4 は肝硬変) が重要です。これまでは肝生検によって NAFLD の肝線維化診断を行っていましたが、侵襲的でありコストやサンプリングエラーなどの問題がありました。そこで近年開発されたのが画像診断モダリティを用いた肝弾性率測定 (エラストグラフィ) です。エラストグラフィには超音波を用いた方法と MRI を用いた方法がありますが、当院では、最も早期から肝線維化を測定する超音波エラストグラフィの装置として開発され、世界中で頻用されている vibration-controlled transient elastography (VCTE) である FibroScan (Echosens 社) を導入しています。プローブから発生する剪断波 (波が個体を伝わるときに生じる横波) が肝臓内を伝播する速度を測定し、肝硬度を数値化 (数値 (E 値) はヤング率 (kPa) で表記) します。NAFLD の肝硬度測定に対する FibroScan の有用性については、肝線維化ステージ 2 以上 (カットオフ E 値 6.6kPa) の診断能で感度 88%、特異度 74% と高い診断能を有しています (Dig Liver Dis 40(5):371-378,2008)。更に、FibroScan は controlled attenuation parameter (CAP) という超音波の減衰を用いた手法により肝脂肪化の程度を診断する機能を有しており、CAP 値 248dB/m 以上は肝脂肪化を反映します (J Hepatol 66(5):1022-1030,2017)。実際の FibroScan の測定結果は図に示すとおりです。



改修前玄関



改修後玄関 (夜間)

出雲キャンパスの新しい顔に！ ～臨床講義棟改修工事について～

会計課施設管理室

島根大学医学部では 2020 年度国立大学法人等施設整備事業として、臨床講義棟改修工事を 2020 年 8 月から 12 月末までに行い、1 月より運用を開始しています。

臨床講義棟は、1977 年の島根医科大学開学当初に建設された 2 階建ての建物で、病院と医学部建物の中間に位置し、これまで学生の授業や病院職員の研修のみならず、学外団体への短期貸し出しを行うなど、幅広く利用されてきました。

この度の改修工事では、経年による老朽改修に加え、車いす対応のエレベーターや自動扉の設置、急こう配であったスロープを緩やかに改修するなどのバリアフリー化を図り、多くの方に安全に安心してご利用頂けるようになりました。

また、1 階の玄関周りは北側に面しており、これまで照明も少なく暗い印象でしたが、ガラスや間接照明を用いて、明るく現代的なイメージに改修しました。

1 階の臨床小講堂 (座席数 165 席) と 2 階の臨床大講堂 (座席数 321 席) においては、講義机の一部更新に合わせて、パソコンやタブレット端末用の電源と情報コンセントを設置し、2 階の北側に整備を行った「ラーニング・commons」は、移動間仕切り壁を設けることで、1 部屋又は 2 部屋で使用できるように計画し、近年の多様化する授業や講演の形態に対応できるよう整備を行いました。

教職員や学生だけでなく、医学部で企画・開催される市民シンポジウムや公開講座の講演の場として地域住民の方にも積極的にご利用頂き、出雲キャンパスの新たな顔として、市民の皆様が親しまれる施設となることを期待しています。



2階 ラーニング・commons



2階 臨床大講堂





ご報告



ご報告

胆膵疾患の診断・治療について

消化器内科 医科医員 そのやま ひろき
園山 浩紀

消化器内科では総胆管結石や胆管炎、閉塞性黄疸、胆管癌、急性膵炎・慢性膵炎、膵癌などに代表される胆膵疾患の診断・治療を行っています。

主に内視鏡を用いた処置を行っており、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査（以下、ERCP）や術後再建腸管症例に対するダブルバルーン内視鏡下逆行性胆管膵管造影検査（以下、DBERCP）を導入しております。

ERCPでは総胆管結石に対する採石術だけでなく、悪性胆道狭窄に対するステント留置や良性狭窄に対する拡張術なども行っています（図1）。

ERCP・DBERCPともに、ここ10年で検査数が約2倍に増加しており、若手医師の技術習得にも十分な症例数があり、非常に多くの症例が学べる環境となっています（図2）。また、超音波内視鏡検査（以下、EUS）を用いての胆管・膵管や膵嚢胞へのドレナージ術も積極的に行っています。

当院では2020年度より総胆管内にある巨大結石に対して胆道鏡を用いた電気水圧衝撃波破碎術（以下、EHL）を導入しました（図3）。これまでERCPで総胆管結石が取りきれず難渋する巨大総胆管結石に対しては外科的手術での対応としていましたが、今後はEHLを用いることで患者さんの負担が少なく処置することが可能となりました。



膵頭部癌による遠位胆管狭窄に対して胆管へ金属ステントを留置。

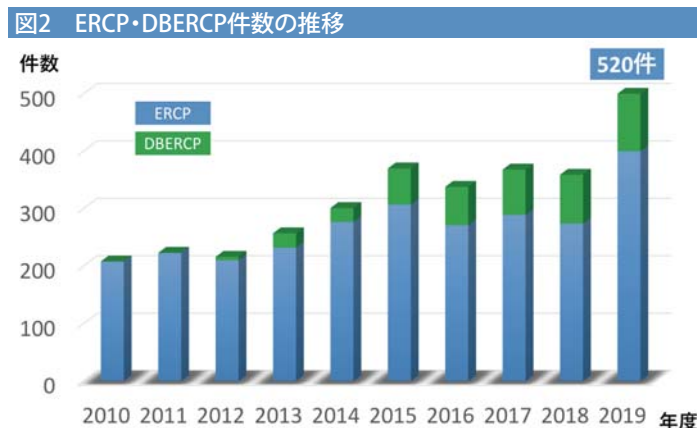
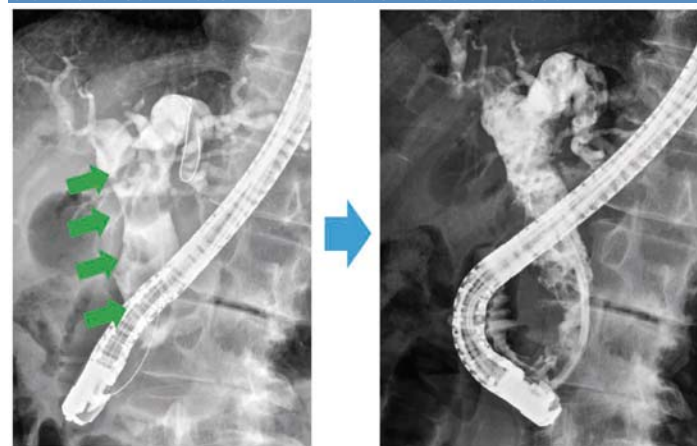


図3 総胆管巨大結石に対する電気水圧衝撃波破碎術



総胆管内に15mm大の結石多数あり

EHLで破碎し総胆管内に多数の小結石を認める

新型コロナウイルスに対する自費検査の実施状況について

COVID-19検査センター センター長 准教授 やの しょうぞう
矢野 彰三

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、冠婚葬祭、介護や見舞い、帰省、仕事や受験など、さまざまな用事で県境をまたぐ往来が必要になりますが、自分が感染していないか、あるいは感染したのではないかと不安になり検査を希望する方も多いようです。当院では、このような検査ニーズの高まりに対して、COVID-19自費検査を2020年12月23日から開始しています。

自費検査は1日10人までの完全予約制で、感染者と濃厚接触のない無症状の希望者が対象です。医師による問診、唾液採取の後、抗原定量検査またはPCRによる核酸検出を実施し、翌日14時までには結果を通知致します。希望により陰性証明書を交付します。詳細は島大病院ホームページをご参照ください。1月15日現在までに、45人に抗原定量検査、30人にPCR検査を行い、陽性者はいませんでした。皆さまに少しでも早く陰性結果と安心をお届けできればと思います。自費検査が皆さまの安全な生活の一助となれば幸いです。



問診室入口



唾液採取ブース

- ① 申込は平日10:00～15:00の間に、下記の予約専用電話にお願いいたします。
- ② 検査は平日の15:00～16:30に限定し、完全予約制で行います。
- ③ 検査料は1検体あたり抗原定量：5,800円、PCR：15,300円（いずれも税込）です。
- ④ 陰性証明書は1通2,200円で交付いたします。

※注意：症状のある方や感染を疑う方は、対象外です。詳細はHPでご確認ください。

自費検査:予約 予約専用電話:090-9821-7995

問い合わせ先 E-mail: covid-yoyaku@med.shimane-u.ac.jp





ご報告



新しい年が明けて初めてのイベント お餅つき会

総務課

1月8日(金)うさぎ保育所では、新しい年が明けて初めてのイベント『お餅つき会』を行いました。例年はお父さん・お母さんの他におじいちゃん・おばあちゃんにも参加頂いて、昔ながらの杵と臼でお餅をつき、ついたお餅をみんなで丸めてお雑煮でいただくという新春恒例のにぎやかなイベントです。今年はコロナ禍により、規模を大幅に縮小して職員と子どもたちだけで挑戦することとなりました。

お餅つきを始めるにあたって、自前の“うさぎ保育所のネーム入りはっぴ”で登場のお父さんたちによる「餅つきデモンストレーション」も楽しみの一つでしたが、今年は参加して頂けないので残念に思っていたところ、動画でのメッセージを届けていただきました。最近話題の「鬼滅の刃」風はかなり完成度の高い動画を先ずは上映すると、子どもたちは歌を口ずさんで次第に盛り上がり、楽しくお餅つき会を始めることができました。その後お餅つきの由来についてお話を聞き、ひまわり組年長さんから順番に小さな杵で餅つき体験をしました。「ぺったんぺったんぺったんこ〜!!」の元気の良い大きなかけ声とともにお餅がつきあがりました。小さいクラスはお餅を触って感触を楽しみ、大きいクラスはみんなでお餅を丸めました。できたお餅は「出雲風お雑煮」で美味しくいただきました。

今年1年元気に過ごせますように…。



お知らせ

病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」について

子供さんが急な病気に罹られた場合等、当院の病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」を利用いただけます。子供が突然病気になった・・・仕事は休めないしどうしよう・・・こんなことで困られたことはありませんか。病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」では、専任の看護師・保育士が責任を持ってお子様をお預かりします。

病児・病後児保育 概要



1 利用対象

- 下記のいずれかに該当するお子さまで、かかりつけ医が病児・病後児保育に適すと認めたとき
- (1) 医学部キャンパスに勤務・在籍する職員・学生等が保護者である、0歳(生後8週間以上)から小学生までのお子さま
 - (2) 上記以外の一般の住民が保護者である、出雲市在住の0歳(生後8週間以上)から小学生までのお子さま又は出雲市内の保育所、幼稚園、認定子ども園、小学校に在籍しているお子さま

2 定員

2名(通常4名ですが、現在新型コロナウイルス感染症対策として、定員を2名に制限しています。)

3 保育時間

月曜日から金曜日の午前8時～午後6時です。
※土曜、日曜、祝祭日、年末年始は休業日です。

4 保育料

基本料金	1,000円(昼食、おやつ代(300円)を含む)
延長料金	各500円
シーツ代	150円(1回につき)
紙おむつ代	30円(1枚につき)
受診付添代行料	2,000円(1回につき)

詳しくは、以下HPをご覧ください。

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/usagi/nikousa.html>

- 施設見学・利用予約の連絡先: 090-8999-3390
- その他(制度全般)についての連絡先: 0853-20-2016 (島根大学医学部総務課総務係)





ご報告



ご報告



島根大学医学部附属病院ヘリポートの除雪体制について

会計課施設管理室

年の瀬が迫った12月30日に久しぶりに山陰を直撃する寒波が襲来し、塩冶地区も一晩で大雪に見舞われました。幸いに、年末の休みと重なったため、当院の診療や、業務には影響が少なかったようで安堵したところですが、平日であれば、1,000人を超える外来患者さんが来院しますので、駐車場などで何かしらの影響はあったのではないかと考えます。しかしながら、当院は特定機能病院であり、災害指定病院でもありますので、雪害による備えも行ってあります。例えば緊急車両がスムーズに進入できるように道路と駐車場の除雪作業や、ドクターヘリが離着陸するためのヘリポートの除雪作業などは、24時間体制で業者と契約しています。昨年12月30日の天気予報では、非常に強い寒気により大雪が予測されていたので初動も早く、大晦日にも関わらず、朝7時から除雪作業もスムーズに行うことができました。幸い当日のヘリの離着陸はありませんでしたが、このような時こそ交通事故などによる外傷の患者さんの発生率は高いと考えております。

当院は、多くの患者さんの力になれるよう、また地域の皆様に喜ばれるよう医療体制以外にもこのような環境整備も力を入れて充実したいと考えております。



入院時に抗原定量検査を行っていること及びその実施状況

COVID-19検査センター センター長 准教授 やの しょうぞう 矢野 彰三

当院では、全身麻酔を要するすべての手術前患者について、手術日が決定した後、唾液による抗原定量検査を予約していただき、陰性の確認をもって手術を実施してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の第3波が増大しつつあった2020年12月10日、本学学生によるクラスターが発生したことをきっかけに、すべての入院患者(*)に対して、入院時に新型コロナウイルスに対する検査を実施することになりました。その結果、各診療科から検査依頼が増加し、検査件数が急速に増加しました(図)。

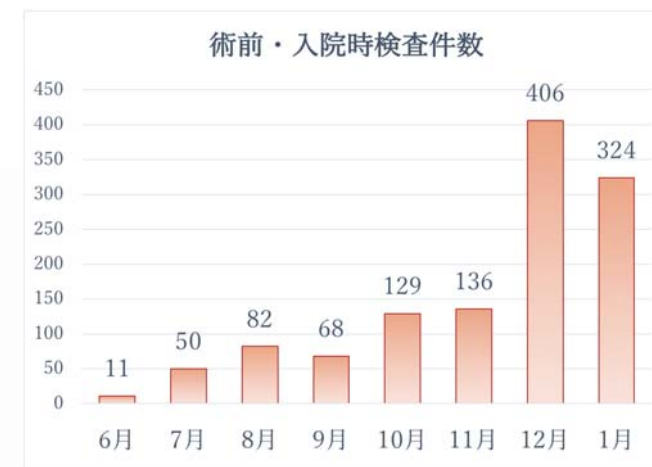


図. 診療科依頼のCOVI-19検査実施件数(2021年1月14日まで)

当院に入院される方にはお手数をおかけしますが、院内感染防止のため、新型コロナウイルスに対する検査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

(*) 唾液が出せない患者や小児を除く。緊急や転院などでは個室入院後、可及的速やかに検査を実施。





ご報告



ご報告

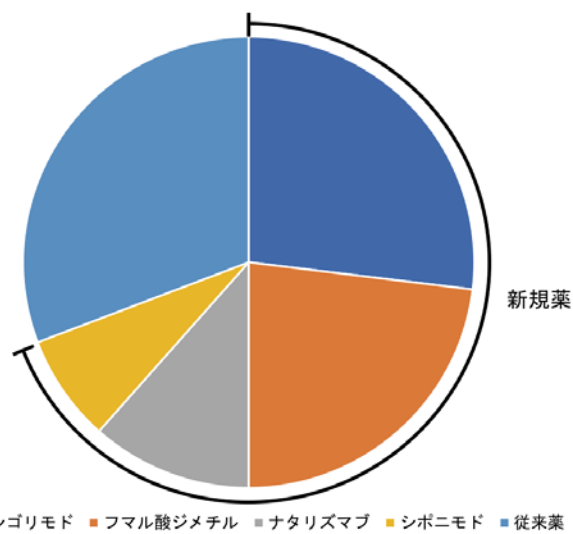
免疫性神経疾患の治療について

脳神経内科 講師 みたき しんご
三瀧 真悟

免疫性神経疾患は自己免疫的背景を機序として発症する神経疾患の総称であり、中枢（多発性硬化症／視神経脊髄炎など）及び末梢神経（ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチーなど）、神経筋接合部（重症筋無力症など）及び筋肉に至るまで、神経系のいずれの部位をも標的とする疾患です。脳神経内科領域では脳卒中および変性疾患と並んで重要な疾患群であり、近年患者数は増加しています。これまでは非特異的に作用するステロイドが治療の中心であり、治療の選択肢は多くなかったのですが、近年特定の分子や免疫機能に作用する治療薬が次々に開発され、治療の選択肢が増えています。早期治療によって予後の改善が期待できる疾患群でもあり、当科では診断および治療に力を入れています。

免疫性神経疾患のなかでも、多発性硬化症／視神経脊髄炎は、近年その治療法の選択肢が特に広がった疾患です。新規の治療薬の特徴を表1に示します。従来の治療薬と比べ、再発予防効果は高く、経口薬や、外来で導入が可能な薬剤も出ています。当科の多発性硬化症患者さんの治療薬の内訳をみても、新規治療薬を使用している患者さんの割合が増加しています（図1）。

図1 多発性硬化症に対する当科での処方



治療薬の選択肢が増えることは歓迎すべきことですが、どの治療薬をどのタイミングで開始するか（新規導入、あるいは既存薬からの変更）の判断には専門性が求められます。効果はもちろんですが、副作用や、薬価などの観点からも、適応患者さんを適切に選択し治療することの重要性がますます高まってきており、今後も大学病院としてその役割を果たしていきます。

表1 多発性硬化症／視神経脊髄炎の新規治療薬

薬剤名	多発性硬化症				視神経脊髄炎	
	フィンゴリモド	フマル酸ジメチル	シボニモド	ナタリズマブ	エクリズマブ	サトラズマブ
投与経路	経口	経口	経口	点滴静注	点滴静注	皮下注
投与頻度	1回／日	2回／日	1回／日	1回／4週	1回／2週	1回／4週
導入方法	入院	外来	入院	外来	外来	外来



子どもたちからの贈り物

総務課

この度、北陵認定こども園から、当院のスタッフに向けたメッセージと千羽鶴をいただきました。メッセージには、「おしゃさん、かんごさん、ありがとうございます」と題して、ふくろう組19名から励ましのことばが書かれていて、可愛らしさを感じるとともに元気をもらえる内容になっています。

また、千羽鶴は、色とりどりの紙で折られていて、「やくそくをまもって、びょうきにならないようにします」「からだにきをつけて、みんなのためにがんばってください」といった子どもたちのことばが添えられています。

メッセージと千羽鶴は、病院2階の廊下にある掲示板に掲示しておりますので、ぜひご覧ください。きっと元気と癒しをもらえることと思います。

1日も早く新型コロナウイルスが終息することを願いつつ、今後も地域の方から応援していただけるような病院でありたいと思います。スタッフ一同一丸となり、頑張っていきましょう。

